

自国の農業発展へ知識学ぶ

海外の農業関係者5人厚真町視察

JICA
北海道センター

国際協力機構（JICA）北海道センター（札幌市）の研修受け入れ事業の一環として、セネガルやマリなどアフリカ5カ国の農業関係者5人が6月25、26の両日、厚真町を視察した。町土地改良区の職員から概要の説明を受けた後、厚真ダムや軽舞第1ダムなどを見学して、自国の農業発展に必要な知識を学んだ。

同センターによると、研修で町への訪問は5年目。土地改良区は水利組合としての機能だけでなく、農業者の参加による地域振興の役割を担っており、発展途上国の参考になる事例という。一行は12日から研修を受講しており、岩見沢市や江別市の土地改良区も訪問した。

厚真町では、25日に厚真ダムや町美里の美里頭首工を訪れた。26日はJAとま

こまい広域の大型穀類乾燥調製貯蔵施設を見た後、軽舞第1ダムと同第2ダムで概要説明を聞き、同組合の職員と意見を交換した。研修の最後に、町総合福祉センターで成果発表となり、参加者は「農業施設が



研修で軽舞第1ダムを視察する外国人たち

きちんと維持管理されている」「土地改良区の組織力が素晴らしい」「素晴らしかった」など感想を話した。

参加したブルキナファソ農業・水・畜産・水産省の農業エンジニア、バヤラ・セバスチャンさん（43）は「自国では技術や経験値が足りず、日本で学ぼうと研修に参加した」とし「団結や協力の精神で施設の維持管理ができていたことを知った。帰国後、農業者のメンタルを変えることに取り組みたい」と意気込む。

同組合の細川隆雄理事長は「研修で得たことを自国で生かしてもらいたい。機会があれば厚真町に来てほしい」と述べた。（室谷実）